

12 子どものやっていきにくさにどう対応するか

うまくいきにくいには、理由があります

「すべての子どもが、生き生きと学習し、友だちと関わりあいながら楽しく学校生活を送ってほしい」…これは、すべての教職員や保護者の願いです。しかし、学校生活のなかでは、授業場面や学校行事、友だち関係などでさまざまなできごとが起こり、しんどさを感じている子どもたちに、どう対応してよいかわからずに悩んでしまうこともあると思います。



子どもたちのさまざまな「困った行動」…実際には、子どもたちが学校生活のなかで何らかの理由でやっていきにくさを感じていて、それが積み重なってさまざまな形で表れていると考えたいと思います。うまくいかないのを「なまけている」「甘えている」「わがまま」ととらえてしまうと、私たちはそれに対応する努力を怠ってしまいます。

子どもたちのさまざまな「困った行動」には、そうになってしまう理由が必ずあります。その理由をていねいに探し出し、そのときの子どもの心情に思いをはせ、適切な支援を積み重ねることで、子どもたちが生き生きと笑顔で学校生活を送ることができるようになることを忘れずに、子どもたちをみんなで支えていきたいと思います。

ここでは、学校生活のなかでよくあるさまざまなケースをもとに、よりよい対応について考えたいと思います。

わからずにやってしまうのか、わかっているもついでにやってしまうのか？

新1年生のAさんは、授業中にまわりのことがとても気になるようです。今日も国語の時間に、席を立って隣の席の友だちに、いろいろとちょっかいを出しています。



◆Aさんが席を立っているのは…

- ① 小学校に入学したばかりで、授業中に席を立ってはいけないのかよくわからない
- ② 席を立ってはいけないことはわかっているも、隣が気になってつい席を立ってしまう
- ③ わかっているわざと席を立って隣の友だちにちょっかいを出している

子どもの行動の背景となる理由を、単純に①～③に分類することはできないでしょうが、①～③のどの要素が大きいのか少し考えるだけで、Aさんへの声かけのことはや対応のしかたはまったく違ってきます。このように、子どものさまざまな行動の理由を、少し立ち止まってみんなで考えてみることは、適切な支援の第一歩だと思います。

次に、いくつかの事例をもとに、よりよい対応の仕方について考えてみましょう。

実際の学校園でのさまざまな事例から…

1 ことばだけでなく、絵でも振り返ろう！ その1

○自分の行動を振り返り、気づいていく支援

～追いかけてっかが好きで、学校でも走りまわるAさんの場合～

興味のあるものが目に入ったり、聞こえたりすると、「いまは〇〇しなければいけないときだから、動いちゃだめだ」と考える前に、身体が動いてしまうAさん。追いかけてっかが好きで、教室でもかなりの頻度で走り回っています。クラスメートや担任の先生からの注意には、「ハイ。次からしません。」と言うばかりで、行動の修正には至りにくいようでした。とっさに状況を判断する力が弱いために、自分の行動を抑えにくいことと、何がいけないのかが明確にわかっていない様子でした。

(1) 「悪い行動」と「正しい行動」言葉だけでなく、目で見て確かめられるようにする。

【ポイント】

落ち着いている時に個別に指導する。

まず、「悪い行動」の絵だけを示し、悪いところがどこか？周囲の人はどんな様子か？など、自己と他者の様子を読み取り、意識化につなげる。



(2) 事前に決めたルール・約束を、守れたらほめます。

【ポイント】

がんばった表を作成して、振り返ったり継続したりするために可視化しておくこと、より強化が期待できます。

1 ことばだけでなく、絵でも振り返ろう！ その2

○自分の行動を振り返り、気づいていく支援

～注意や指摘されることに抵抗感が強いBさんの場合～

友だちから注意や指摘をされると、「やってるって!」「わかってるし」など、素直に受け止めることが出来ないBさん。しかも、注意してくれた友だちに手が出たり、暴言を吐いたりすることもあり、クラスメートからだんだん敬遠されるようになりました。

(1) 見て考える物を用意して、「どこが悪いかをみつけよう。どうすればよいか考えよう。」と問いかけ、自身の行動と周囲の人の思いを考えやすくする。

【ポイント】

落ち着いている時に個別指導をする。

まず、不適切な関わりの絵を示し、悪いところがどこか？相手はどんな様子か？など、自己と他者の様子を読み取り、自分の行動にせまらせる。

この後の男の子のたいどを 見てください

この二つは、どこがよくないですか？ 相手の子はどんな様子ですか？

気持の良い態度

注意や声をかけてくれるのは、 いっしょにちゃんと そうじをしたい からです。 その声かけに ありがとうの 気持ちで ください。

(2) クラスメートに向けては、どのように声かけをすればBさんが受け入れやすいのかや、Bさんにはどんなよいところがあるのか等を考えるように促します。

【ポイント】

Bさんには「ちゃんと～する。」という言い方よりも、「何分まで一緒にしよう。」と前向きに取り組めるような声かけをする方が、Bさん自身も周りの友だちも、気持ちよく一緒にできることを感じ取られるようにします。

2 苦手なことも、何度もほめられると やる気UP！

○直してほしいところは、ほめるチャンスとしてとらえる支援

～授業中の姿勢が保てないCさんの場合～

何度も同じ注意を受けてしまう。例えば、授業中により姿勢が保ちにくいCさん。決して姿勢なんてどうでもいいと思っている訳ではありません。しかし、しばらくすると姿勢がくずれ、担任の先生から同じ注意を受けてしまいます。担任の先生も注意以外にどうしたらいいのか困っています。



- (1) 行動を促す声かけを一連の流れで少しずつ行うようにします。
 - ① 気を付けてほしいことをシンプルに指摘します。
 - ② 指摘したことが、少しでもできていたら具体的にほめます。
 - ③ しばらく続けていることをねらってほめ言葉を伝えます。
 - ④ 時間が伸びても続けていられていることをほめます。
- (2) 「指摘」や「注意」をしたら、その後に必ず「肯定的評価」「ほめる」声かけを心がけます。一回注意や指摘をしたら、二回以上ほめるようにします。
- (3) 姿勢や字の丁寧さ、掃除、発表やあいさつの声など、日頃からどのような場面でどの子をほめられるのか、ほめるきっかけを意識して子どもたちと関わるようにします。
- (4) 「背中ピン」や「姿勢チャンピオン」、「背中に鉄の棒が入っているみたい」等、注意やほめる言葉のバリエーションを増やし、子どもの意識が継続しやすい工夫をします。

3 たくさんの人がいいところを見ているよ！（自尊感情アゲアゲ作戦！）

○自尊感情やポジティブな感覚が高まるように

～「どうせ自分にはいいところなんてない。」と思いがちなDさんの場合～

「自分にはよいところがなく、友だちも僕の悪いところしか言わない。」と、ネガティブな感情が強いDさん。学校生活全般に消極的になってきているのが心配です。

Dさんについて、よかったところ話～その8～
たくさんの先生や友だちから

□月△日

○漢字50問テスト素晴らしい結果！

○新オーディションにおち着いてがんばった。

○友だちへの話しかけ方が上手です。

「ちょっと、いい？」

「そうなん（^o^）」

○委員会の仕事がんばって続けています。

○教室そうじも役割をしっかりと果たしています。

○ノートなどでいねいな字を時間内に書くことができているのが素晴らしい。

※『いい意味での適当』で、書けるようになったのかな。

○一行日記がんばって書き続けている。

一週間分のよい情報を収集してDさんに示します

専科の先生や委員会担当の先生から情報収集したことをDさんに知らせます

クラスメートからの情報も必ずDさんに伝えます

専科の先生や委員会担当の先生から情報収集したことをDさんに知らせます

Dさんがこだわってしまうこと（丁寧な字を書く意識が先行して時間内に書けないことが多い）に対して、柔軟に対応していることをほめます

継続できていることをほめます

- (1) Dさん自身が、自分のよいところをたくさんの人が見つけていることを知ります。
- (2) Dさんにとっては何気ない事やたいしたことでないと思うようなことも、とても大切なこととしてとりあげ、Dさん自身の価値観を変えていくようにします。
- (3) ほめることを重ねていくことによって、Dさんの課題を修正する気持ちにつなげることができるようにします。
- (4) 紙に印刷してDさんに渡します。Dさんはそれをファイルに綴じていくことで、自分のよいところをいつでも振り返ることができます。